

BNP活用が拓く 地域医療連携と 心不全管理の新戦略

座長

高原 充佳 先生

(大阪大学医学部附属病院 臨床検査部 部長)

演者

前田 美歌 先生

(済生会熊本病院 心臓血管センター循環器内科)

日時

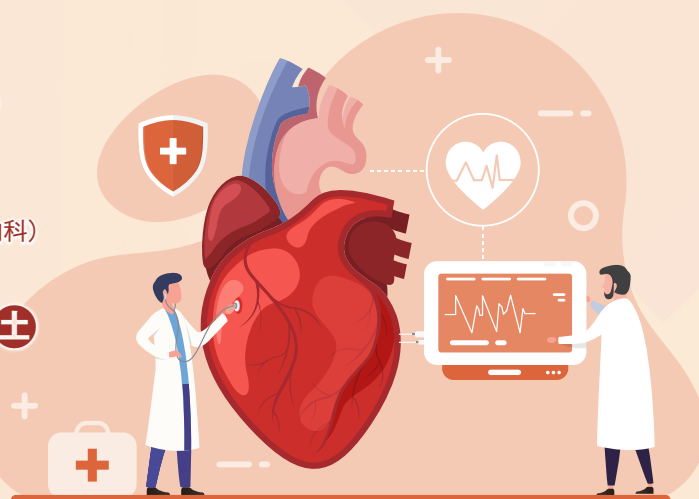
2026年10月10日(土)
12:00~12:50

会場

第3会場

神戸国際会議場 3Fレセプションホール

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目9-1



一般参加の方は参加要録が必要になります。

9月1日(月)より事前参加登録およびランチョンセミナー整理券予約受付開始となります。

事前参加登録(1次)は2026年9月1日(火)10時~9月15日(火)17時までとなります。

事前参加登録URL

<https://jcls58.umin.jp/registration.html>

詳細は日本医療検査科学会第58回大会のホームページをご確認ください。

※整理券の予約・配布はいずれも無くなり次第、終了とさせていただきます。

JACLaS EXPO 2026展示会
のお知らせ

【会期】2026年 10月8日(木) 9:30~17:30
10月9日(金) 9:30~17:30
10月10日(土) 9:30~14:00

【会場】神戸国際展示場
東ソーブース番号No. A-10

「BNP活用が拓く地域医療連携と心不全管理の新戦略」

座長： 高原 充佳 先生（大阪大学医学部附属病院 臨床検査部 部長）

演者： 前田 美歌 先生（済生会熊本病院 心臓血管センター循環器内科）

超高齢社会を迎えた本邦では、心不全患者数の増加と再入院率の高さが地域医療に大きな負担を与えている。特に、症状出現後に初めて医療介入が行われる従来型の心不全診療では、急性増悪の予防や早期介入が十分に機能していない。2025年改訂版心不全診療ガイドラインでは、心不全の定義が国際的に統一され、ステージA・Bの無症候期からの介入が強調されるとともに、BNP/NT-proBNP測定役割が大幅に拡大した。

BNPは心筋ストレスを鋭敏に反映する一方、腎機能・年齢・肥満・炎症などの影響を受けるため、絶対値のみでの判断には限界がある。しかし、地域医療においては、簡便・迅速・非侵襲で測定可能という特性が、スクリーニングから専門医紹介、慢性期管理まで幅広い場面で有用である。特に、BNP $\geq$ 35 pg/mL (NT-proBNP $\geq$ 125 pg/mL)を境とした前心不全の拾い上げは、心エコー未実施の一般医療機関において重要な役割を果たす。また、急性心不全では退院時BNPが予後と強く相関し、慢性期では経時的変化(30%以上の増減)が治療調整の指標となることが示されている。

当院では、年齢別カットオフを用いた心ストレススクリーニングや、地域医療機関とのBNP連携を通じて、潜在的心不全患者の早期発見と再入院予防に取り組んでいる。本講演では、BNPの生理学的背景、限界、ガイドライン改訂のポイントを整理し、地域医療における実践的な活用法を提示する。BNPは単なるバイオマーカーではなく、急性期病院とかかりつけ医をつなぐ「共通言語」として、心不全パンデミックに対抗する鍵となり得る。